



八幡小だより 6月号

令和8年5月29日

八潮市立八幡小学校

児童390名 15学級

温かくて優しい心

校長 小久江 桂子



あじさいの花が色鮮やかに咲き始めました。保護者の皆様、地域の皆様には、日頃より本校の教育活動に温かい御理解と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、最近、御来校いただいた方はお気づきかもしれませんが、南門や遊具、朝礼台の色が美しく塗り直され、見違えるように明るくなりました。

これは、ペンキ塗りボランティアさんが、暑い中、何日もかけて八幡小のために作

業してくださっているからです。一筆一筆丁寧にペンキを塗ってくださるその姿からは、『八幡小の子供たちが気持ちよく楽しく過ごせますように』という、深い愛情が伝わってきます。

こうした優しくて深い愛情は、子供たちに『自分たちは見守られている』という安心感を育んでいくと、私は考えています。ボランティアさん、ありがとうございます☆

保護者の方や地域の方の背中を見て育っている子供たちにも、優しい心が育っています。

先日、学校のビオトープで大切に育てていた金魚が一匹、死んでしまいました。すると、6年生数名が、死んでしまった金魚を悼み、自分たちで野花を摘んで供えてくれていました。誰かに言われたからではなく、小さな命の終わりに心を寄せ、そっと手を合わせる。そんな『優しさ』が心に育っている6年生の姿に、大変感動しました。

そして、この優しさは教職員の間にも広がっています。

ある時、教職員から「子供たちの対応をみんなでやろう」という声が自然とあがりました。校長として、「学校組織全体で子供たちを育む」という意識が浸透していることを、大変嬉しく、大変心強く思いました。



ペンキを塗り直してくださっているボランティアさんの優しさ。小さな命を大事に思う6年生の優しさ。そして、子供たちのために互いを思いやり、自主的に声をかけ合う教職員の優しさ。形は違いますが、どれも『相手を思いやる温かくて優しい心』から生まれたものです。

優しさは、受け取った人がまた誰かに優しくすることで、どんどん広がっていきます。今後も、本校のなかよし宣言『仲間を思いやります。自分がされて嫌なことはしません。』の行動化を推進してまいります。



今年度も八幡小のホームページを活用して、随時子供たちの様子を配信しています。ぜひ、ご覧いただければ幸いです。

←本校ホームページ用 QR コード(読み取るとページに移動します。)